

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年10月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100787
法人名	医療法人社団 萩野医院
事業所名	グループホームやまだ
所在地	富山県富山市山田村沼又88
自己評価作成日	令和元年9月5日
評価結果市町村受理日	令和元年10月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	令和元年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は山間の自然豊かな穏やかな環境の中にあり、窓からは四季を感じられる景色をいつでも眺める事が出来ます。今年度も「声をかけて 耳を傾けて 手を触れて」を事業所目標とし、9名の利用者様一人ひとりを大切に思い、気づきを大切にしたサービスに努めています。またご家族様とも良好な関係を築けるよう丁寧な対応をし信頼関係を築くよう努めています。萩野医院とも医療連携をし健康管理はもちろんのこと、看取り介護にも積極的に取り組んでいます。保育園や、消防訓練など地区の方々との交流も定着しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりのこれまでの人生を敬い、職員は思いやりの心と笑顔を大切に支援に努めている。利用者の重度化が進むなか、萩野医院との医療連携が確立されており、利用者、家族の安心につながっている。職員は看取りの経験を積むなか、利用者に優しく声をかけ、心ませながら、ケアサービスに取り組んでいる。また、季節の花見に出かけたり、地域の催事に積極的に参加するなど、地域との交流に努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		

グループホームやまだ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに行われる法人の研修にて職員の理解や認識を深め、その思いを共有しています。事業所目標と共に毎朝唱和し、より良いサービスの提供が出来るよう努めています。	法人共通の基本理念に加え、事業所独自の目標として、「声をかけて、耳を傾けて、手を触れて」と定め、目に入りやすい事務所やリビングに掲示している。職員全員が目標を共有できるように、朝礼等で唱和し、ケアの提供が実践できているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所や地区のカフェでの歌謡ショーの場に招待して頂いたり、春祭りでは獅子舞の見学、消防訓練では地区の方々も参加して下さい当ホームの生活に寄り添って頂いています。	保育所へ訪問して人形劇や園児たちの踊りを楽しんだり、祭りでの獅子舞を見物に出かけるなど、利用者と地域とのつながりを大切にしている。また、オカリナの演奏や歌謡ショーなどボランティアの来訪を受けて地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、交流会や避難訓練などの際、地域の方々に声をかけ、来ていただき当施設を理解してもらっています。随時、入居相談も対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修や行事、第三者評価結果、身体拘束等の適正化について事例を基に話し合った内容を相談しています。貴重な意見や感想を頂き、サービスの提供に活かしています。	運営推進会議では、事業所で行われた行事の様子や研修会の内容などを報告している。委員からは避難訓練における地域住民参加について質疑が交わされるなど、活発に意見交換が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎年、第三者評価を受審しており、結果を市に提出しています。個人情報取り寄せの際は、行政センターに依頼書を提出しています。法人本部は市と密に連携をとっており、協力関係が築けています。	地域包括支援センターとは、連携を図り情報交換を図っている。市の地域福祉課へは、利用契約に基づく利用料の請求において注意する点を相談するなど、協力関係を築くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束等の適正化の指針が作成され、それを基に研修を行い施設では事例検討を定期的に行っています。人権を守る事が介護の基本という認識を持ち、安全を確保しながらその人らしい暮らしを支援するよう職員で共有し取り組んでいます。</p>	<p>身体拘束をしないケアについては、毎月の研修会や3か月ごとの委員会を通じて、全職員に徹底するよう取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者やベッドからの転倒リスクの高い利用者など、一人ひとりの安全に配慮し、声をかけ、やさしく誘導するよう心掛けている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎年、虐待について研修を行い理解に努めています。困難な事例があると職員で話し合い、職員のストレスの改善や、利用者の周辺症状の緩和等主治医との連携を図り虐待が起こらないよう注意をしています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者に成年後見制度を利用している方がおられます。職員はそれについて学び、また計画作成者が社会福祉士を所持しており、権利擁護や成年後見制度について熟知しています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用開始契約の際は、重要事項や契約内容の説明を十分に行い理解、納得して頂き締結をしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から電話連絡をこまめに行い、家族の要望などの聞き取りを行ったり、面会時の会話を大事にし運営に反映するよう努めています。</p>	<p>家族が面会に訪れた時や家族交流会に集まった折に、意見や要望を集約している。また利用者の楽しそうな写真を載せた「やまだ通信」を毎月届けており、家族ともコミュニケーションを図るよう努めている。意見があれば職員間で話し合い、速やかに活かすよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からより良い介護に繋げるため、看護・介護職員の意見や提案を聞き、本部に意見を伝え運営に反映できるよう努めています。	職員との定例的な面接はないが、管理者は日常業務の中で、意見や要望を聞いている。日頃から職員とのコミュニケーションを図り、毎年実施している職員の「自己評価」からも、職員の思いを把握している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事考課制度を活用し、職員全員の勤務状況や努力を把握し代表者に伝えていきます。それらが給与に反映され、やりがいを感じられる職場環境の整備に努めています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、介護の質の向上のために、職員に応じた外部研修の受講を勧めています。資格取得のための支援も必要と感じています。法人では内部研修を計画、実施しており現場で活かせる取り組みを行っています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は同業者と交流する機会をつくるよう勧めています。外部研修に参加した際には、お互いの職場の状況を語り合い、サービスの質の向上に努めています。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、心身の状態を確認しながら思いを聞き、本人が不安なく利用できるような努めています。利用後はユマニチュードやパーソンセンタードケアでその人らしい生活を支えています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に十分に傾聴し、不安や要望に応えられるよう丁寧に誠意をもって対応し、信頼されるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や以前の介護支援専門員からの情報や家族の要望から初期の介護計画を作成しています。入居後の心身の状態から、課題の優先順位を考えサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを一人の人として意識し、コミュニケーションを通して信頼関係のもと過ごす中で相手のやりたいこと、出来る力を知り声掛けを行い支え合い過ごしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も本人の少しの変化でも家族にお伝えし、面会に来られた際には話しやすい環境を作り本人の近況等をお伝えし、その思いを共有したいと考えます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	家族はもちろんお孫さんや兄弟、友人、近所の方、教え子さんらの面会があり喜ばれています。面会は自由に来ていただいており施設も入りやすい明るい雰囲気になるよう努めています。	散歩中、隣接のパークゴルフ場に来た知人から声をかけられ、利用者が楽しむ場面があったり、外出が困難な時は、インターネットで利用者が住んでいた地域の馴染みの場所を検索し、画面を見ながら思い出話で会話が弾むよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の人生観や生活歴の把握を行い、施設での新たな人間関係が築けるようサポートし、他者との相性にも配慮するよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族の来訪があった場合は相談に応じ、その家族を訪ね利用者の思いの共有を行いました。また他界された場合は通夜や葬儀に参列し、家族支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの人生観、生活歴の把握、意向や希望を十分に汲み取れるようコミュニケーションを大切に、本人の思いに同調し安心できる環境作りに努めています。	日頃から利用者とのコミュニケーションを図り、暮らし方の思いや意向の把握に努めている。困難な時には、本人の行動を見守り気持ちに寄り添いながら、何を伝え、何をしたいかなど、本人の思いを汲み取るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族からの聞き取りを行い、本人を知り、今後の施設での生活が出来るだけ本人らしい生活になるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を日誌に記録しており現状把握をし、個々の行動や心身状態の観察を行い、その体調に合わせた施設での過ごし方が出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や発言などから課題が出てくる。その中で職員が気づいた事などを報告、意見交換したり、家族にも相談し意見を貰い、介護計画作成、実施しています。モニタリングも行い次の介護計画に活かしています。	利用者が本人らしい生活を送るため、ケアのあり方について職員間で検討し、家族や関係者の意見を参考に介護計画の作成に努め、見直しも図っている。終末期の計画作成には、本人の状態の把握や家族の意向を確認するなど、方針を共有して取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の日誌の記録、申し送りノートで介護の気づきや工夫を記録し情報の共有をし、実践に活かし、介護計画の見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じ、声かけや対応を柔軟に行っています。本人や家族の状況に合わせて固定観念にとらわれない支援が出来るよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店より毎月訪問があり散髪や髭剃りが受けられ気分転換にもなっています。施設周辺を散歩しパークゴルフ場に来ている方々と声を掛け合い楽しむこともあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明をしていますが、毎月往診が受けられ、医療連携が取れていることから全員が母体施設の萩野医院を主治医に希望されます。専門医の受診が必要な時は、紹介にて受診してもらえよう支援しています。	萩野医院との医療連携ができており、利用者はいつでも適切な医療が受けられ、本人、家族が安心して生活を送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日頃から利用者とは多く関わる中で少しの異変に気づくことが出来ており、すぐに看護師に報告し、母体施設の萩野医院に連絡し、早急に適切な対応が取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早々に地域医療連携室や担当看護師と連絡を取り、安心して治療が受けられるよう情報提供しています。また、退院に向けて面談、退院カンファレンスにも参加し、利用者が安心して利用再開出来るよう調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から十分な観察を行い、主治医より看取りの状態と判断した際、主治医から家族に病状の説明をします。介護支援専門員は本人病状や思いに合わせ、家族や医師、看護師、介護職員と話し合い、介護計画の立案をします。苦痛の緩和や精神面の支援、会いたい方に会いに来ていただくなど最期までその人らしく安心できるようチームで支えます。	重度化や終末期に向けては、家族に事業所の取り組みを説明し、方針を共有している。医療機関との連携を図り、時間ごとの体位変換を行うなど、利用者が最期まで心穏やかな生活が送られるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがあります。急変や事故発生時には管理者に連絡をし、職員間の緊急連絡網を回す対応をしています。春には地元消防署より心肺蘇生の手順と呼称を習いました。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎年（年2回）行っており、5月には夜間を想定し初期消火や通報、避難誘導の訓練を行い、地元住民の協力も得ることが出来ました。	避難訓練の際には、近隣住民に車椅子利用者の避難と見守りの協力をお願いしている。また立地条件を基に「土砂災害に関する防災マニュアル」を作成し職員の役割も周知している。	防災マニュアルにある避難場所までは距離があるため、経路を辿り、安全確認を行うと共に、近隣住民以外にも協力を呼びかけることが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重した支援が出来るよう研修で学んだことを常に再認識しながら、不快な思いにさせないように、思いに寄り添う言葉かけや介護に努めています。	利用者には、生活してきたこと、今まで出来たことへのこだわりや誇りがある。否定的な言葉かけに注意して、一人ひとりの人格を尊重しながら本人の意欲を引き出し、できる喜びに繋がるよう職員間で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつも利用者の言動や行動、表情などを見て、問いかけをしたり、選択が出来るように話しかけ、触れ合う事などで自己決定できる対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや希望を大切に思い支援しています。起床時間や朝食時間を調整したり、午睡も個人のペースに合わせ、居室やソファなどでリラックス出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はホットタオルでのお顔拭きや整髪、髭剃り等の介助をする等日々清々しく一日が過ごせるよう心がけています。顔や手のマッサージやお化粧を楽しむ行事を計画実践しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自助具を使用し自分で食べることが出来るよう支援したり、その人が食べやすい食事形態にすること、本人のなじみの物を家族に持参してもらい食べる楽しみを感じていただけるよう支援しています。	利用者は、体調や気持ちのムラなどで食欲も出ず食べる意欲もなかったりと日々変化があり、無理強いせず様子を見ながら勧めている。お彼岸には、里芋を混ぜたおはぎを皆で作り、職員と一緒に美味しく季節を味わった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事形態でバランスが取れるよう配慮した食べられる量を提供しています。また水分量も確保出来るよう、本人が好みの飲み物を提供することもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。個々の口腔状況に合ったものを使用し（口腔ウェット、スポンジ、歯ブラシ）口腔内の衛生を保つよう努めています。また歯科医師からの研修も受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況やそれぞれの習慣を把握し、出来る力を引き出しながら安全にトイレでの排泄の支援に努めています。	本人のペースに合わせてトイレでの排泄を進め、介助が必要な利用者には、プライバシーを守りながらお手伝いしている。またオムツ利用の方には、洗浄や清拭にて清潔保持に努め、気持ちの良いケアを図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、起床時の水分摂取に取り組んでいます。また便秘体操なども行い体を動かすように努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調管理を行いながら入浴を勧めています。入浴後は保湿クリームを塗るなどして皮膚の乾燥を防ぐよう努めています。また体調不良で入浴できない場合は清拭し身体の清潔保持に努めています。	入浴の際には、利用者の体調を見て希望を聞きながら進めている。状態変化に応じてリクライニングシャワーチェアを使用することもあり、個々に応じた柔軟に対応を行い、気持ちよい入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、日中の適度な運動も取り入れるなどし、より良い睡眠が取れるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬は薬剤情報によりいつでも見られるようになっており確認することが出来ます。新しい薬を飲む際は職員で状態や副作用がないか観察しています。服薬の際は日付と氏名の確認を二人で行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりとの関わりの中でその人の好みや得意なことを把握したり、季節に応じた楽しみ事を見つけられるようなレクリエーションを行うよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける方、車椅子の方、個々の状態に応じて、天気の良い日は散歩に出かけ気分転換を図っています。また施設の車で桜や菖蒲、コスモス見学、山田の名所めぐりなどを計画し実施しています。	外に出たら、山間の澄んだ空気の中で、開放的な気持ちで散歩が楽しめる。四季折々にドライブで花見に出かけたり、地区の祭りや保育所の行事に参加するなど、利用者は地域の交流を兼ねて出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたい方は、家族の了解を得て、少額を持って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親類から届いた年賀状や手紙は本人にお渡しし、お部屋に飾っていつでも見ることが出来るようにしています。父の日母の日にはメッセージカードを書いていたいただき喜ばれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは、明るい日差しがさし込み、美しい四季折々の景色を眺める事が出来ます。爽やかな日は窓を開け換気を行い自然の風を感じます。また季節の花を飾り眺める事もあります。ホールやトイレは毎日掃除し清潔に努めています。	窓を開ければ青い空、鳥の声、風の音が身近に感じられる。共用スペースは、利用者が手すり拭きやモップがけをしている。テーブルの上には、地元の人からもらった小菊やケイトウの花が飾っており、利用者は楽しみながら、絵本を読んだり塗り絵をしたりと穏やかな時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの空間を大切に、居室で休まれたり、ホールのソファでゆったり読書や会話を楽しみながら過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真や娘からのスケッチ画や手紙、本人の塗り絵、誕生日の色紙、父母の日のメッセージカードを飾り、寂しい思いをしないよう工夫しています。	どの居室も明るく清潔感がある。ベッド上で過ごされる利用者の視線を考えて、家族写真のタペストリーやイラスト画などの置き場所を決めている。家族からの思いやりが感じられ、心穏やかに過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は電動ベッドとL字バーで個々の出来る力を活かせるよう配慮し、廊下やトイレ、風呂場などには手すりが設置され、安全に行動出来る環境を整えています。また居室やトイレが分かりやすいよう表示しています。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームやまだ
 作成日 令和元年 10月 27日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災マニュアルにある避難場所までは距離がある為、経路を辿り、安全確認を行うと共に、近隣住民以外にも呼びかけをかける事が期待される。	避難のタイミングを見計らって、安心安全に移動できる準備を整える。	自然災害（土砂災害等）を想定した訓練を予定しているが避難所までの道中が危険であると思われる。行政からの土砂崩れ危険マップを把握し安全に避難できるよう準備したい。しかし災害時には当施設が避難所の役割を担えるのではとも考えている。	6ヶ月
2	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の方が訪ねて来ている。	ご家族様、馴染みの方、地域の方との交流を深めていく。	立地場所が山間地であるため、来訪者が少ないのが悩みだが、ご家族様や時々来られる馴染みの来訪者様へまた来て頂けるようお声がけしたり、隣接するパークゴルフ場などへ出向き、グループホームやまだの存在を地域の方にアピールしていきたい。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。